修論進捗メモ

萱場 悠貴

2018年12月20日

1 2018/12/21 発表

1.1 効用関数パラメータ

一便あたり座席数と一便あたり貨物と所要時間を新たに説明変数として加えた。また、費用と観測できない 品質との間に生じる内生性の問題に対処するために操作変数推定を行う。操作変数として用いるのは費用以外 の説明変数とエアライン参入数、滞在可能時間、路線距離、一便あたり超過手荷物である。

表 1 は最終的な効用関数パラメータの推定結果である。内生性を考慮しない OLS 推定では費用の係数が正となっており、符号条件と一致しない。一方 IV 推定においては費用の係数が負となっており、かつ他の変数の係数推定値も符号条件と一致している。

表 1

	Dependent variable:	
	OLS	IV
	(1)	(2)
費用	0.0001**	-0.0003***
	(0.00004)	(0.00005)
log(航空便数)	0.159	0.078
	(0.129)	(0.129)
アクセシビリティ	-0.030***	-0.033***
	(0.002)	(0.002)
鉄道ダミー	11.422***	7.823***
	(1.163)	(1.191)
一便あたり座席数	0.009***	0.015***
	(0.002)	(0.002)
一便あたり貨物	0.002***	0.002***
	(0.0003)	(0.0003)
所要時間	-0.024***	-0.011***
	(0.001)	(0.002)
Constant	-2.521**	1.642
	(1.176)	(1.215)
Observations	2,588	2,588
\mathbb{R}^2	0.601	0.606
Adjusted R ²	0.600	0.604

Note: *p<0.1; **p<0.05; ***p<0.01